

鎮咳剤

デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物製剤

貯法：室温保存  
有効期間：5年

**メジコン錠15mg**

劇薬

**メジコン散10%**

MEDICON® Tablets/Powder

	錠	散
承認番号	14400AMZ00342000	21800AMX10786000
販売開始	1969年9月	1955年10月



**\* 2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）**  
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	メジコン錠15mg	メジコン散10%
有効成分	1錠中 デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物15mg	1g中 デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物100mg
添加剤	乳糖水和物、トウモロコシデンプン、結晶セルロース、ステアリン酸マグネシウム、タルク、白色セラック、ヒマシ油	乳糖水和物、硫酸マグネシウム水和物

3.2 製剤の性状

販売名	メジコン錠15mg	メジコン散10%
性状・剤形	セラックコーティングを施した白色円形の錠剤である。	白色の粉末である。（散剤）
外形	表面	⑬ 150
	裏面	15
	側面	
大きさ	直径 約5.0mm 厚さ 約2.3mm	—
質量	約0.05g	—
識別コード	⑬150:15	—

4. 効能・効果

○ 下記疾患に伴う咳嗽

感冒、急性気管支炎、慢性気管支炎、気管支拡張症、肺炎、肺結核、上気道炎（咽喉頭炎、鼻カタル）

○ 気管支造影術および気管支鏡検査時の咳嗽

6. 用法・用量

通常、成人にはデキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物として1回15～30mgを1日1～4回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

8. 重要な基本的注意

眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

9.7 小児等

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

9.8 高齢者

減量するなど注意すること。一般に生理機能が低下している。

\* 10. 相互作用

本剤は、主に肝代謝酵素 CYP2D6 で代謝される。[16.4 参照]

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
* 選択的 MAO-B 阻害剤 セレギリン塩酸塩 ラサギリンメシル酸塩 サフィナミドメシル酸塩	セロトニン症候群があらわれることがある。	本剤及びこれらの薬剤は脳内のセロトニン濃度を上昇させる作用を有するため、併用によりセロトニンの濃度が更に高くなるおそれがある。
薬物代謝酵素（CYP2D6）を阻害する薬剤 キニジン アミオダロン テルピナフィン等	本剤の血中濃度が上昇することがある。	これらの薬剤の薬物代謝酵素（CYP2D6）阻害作用により、本剤の代謝が阻害されるため。
セロトニン作用薬 選択的セロトニン再取り込み阻害剤（SSRI）等	セロトニン症候群等のセロトニン作用による症状があらわれることがある。	セロトニン作用が増強するおそれがある。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 呼吸抑制（0.1%未満）

11.1.2 ショック、アナフィラキシー（いずれも頻度不明）

呼吸困難、蕁麻疹、血管浮腫等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

種類\頻度	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
過敏症			発疹
精神神経系	眠気、頭痛、眩暈	不眠	不快
消化器	悪心・嘔吐、便秘	食欲不振、口渇、おくび	腹痛

13. 過量投与

13.1 症状

嘔気、嘔吐、尿閉、運動失調、錯乱、興奮、神経過敏、幻覚、呼吸抑制、嗜眠等を起こすことがある。

13.2 処置

ナロキソンの投与により改善したとの報告がある。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤交付時の注意

（錠）

PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発する

## メジコン錠・散 (2)

ことがある。

### 16. 薬物動態

#### 16.1 血中濃度

健康成人 10 例にデキストロメトルファン臭化水素酸塩 60mg 注を単回経口投与したときのデキストロメトルファン及びその主代謝物であるデキストルフアンの薬物動態パラメータを表 16-1 に示す<sup>1)</sup> (外国人データ)。

表 16-1 薬物動態パラメータ

	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	AUC <sub>0-∞</sub> (ng·hr/mL)	T <sub>1/2</sub> (hr)	CL (mL/hr/kg)
デキストロメトルファン	5.2±1.8 ~5.8±1.7	2.1±0.3 ~2.6±0.4	35.1±13.9 ~42.0±13.2	3.2±0.3 ~3.6±0.3	52004±16300 ~94492±39500
デキストルフアン	774.2±54.3 ~879.1±59.7	1.6±0.1 ~1.7±0.1	3590.2±209.9 ~3984.8±200.8	2.7±0.4 ~4.0±0.6	226.8±18.2 ~238.6±14.7

(HPLC) (平均値±標準誤差)

注) 本剤の承認された 1 回用量はデキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物として 15~30mg である。

#### 16.4 代謝

デキストロメトルファンは肝臓で大部分が代謝され、*O*-脱メチル体 (デキストルフアン)、*N*-脱メチル体及び *N*, *O*-脱メチル体となる。これらの代謝物はデキストロメトルファンと同等の鎮咳作用を示した<sup>2)</sup> (外国人データ)。

デキストロメトルファンの肝代謝に関する CYP 分子種は、*O*-脱メチル化では CYP2D6、*N*-脱メチル化では CYP3A4 である<sup>3)</sup>。[10. 参照]

#### 16.5 排泄

ヒトに <sup>14</sup>C-標識デキストロメトルファンを経口投与したとき、投与後 24 時間以内の尿中及び糞中回収率は、総投与放射活性に対してそれぞれ 42.71%、0.12%であった<sup>4)</sup> (外国人データ)。

### 17. 臨床成績

#### 17.1 有効性及び安全性に関する試験

##### 17.1.1 国内臨床試験

再評価時の臨床試験の成績は表 17-1 のとおりであった<sup>5)</sup>。

表 17-1 臨床成績

疾患名	有効例数/有効性評価対象例数	有効率 (%)
感冒	189/219	86.3
急性気管支炎	69/97	71.1
気管支炎	350/413	84.7
慢性気管支炎	30/43	69.8
気管支拡張症	16/25	64.0
肺炎	17/21	81.0
肺結核	287/362	79.3
急性上気道炎	36/37	97.3
急性気道炎	37/50	74.0
咽頭炎	9/11	81.8
気管支造影術	8/11	72.7
計	1048/1289	81.3

### 18. 薬効薬理

#### 18.1 作用機序

デキストロメトルファンは、延髄にある咳中枢に直接作用し、咳反射を抑制することにより鎮咳作用を示す<sup>6)</sup>。

### 19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物  
(Dextromethorphan Hydrobromide Hydrate)  
(JAN) [日局]

化学名：(9*S*, 13*S*, 14*S*)-3-Methoxy-17-methylmorphinan  
monohydrobromide monohydrate

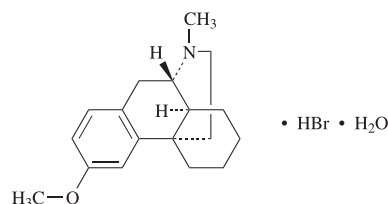
分子式：C<sub>18</sub>H<sub>25</sub>N<sub>0</sub> · HBr · H<sub>2</sub>O

分子量：370.32

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末である。

メタノールに極めて溶けやすく、エタノール (95) 又は酢酸 (100) に溶けやすく、水にやや溶けにくい。

化学構造式：



融点：約 126°C

分配係数：16.98 [pH7、1-オクタノール/緩衝液]

### 22. 包装

〈メジコン錠 15mg〉

500 錠 [瓶、バラ]

100 錠 [10 錠 (PTP) × 10]

1000 錠 [10 錠 (PTP) × 100]

〈メジコン散 10%〉

100g [瓶、乾燥剤入りキャップ]

500g [瓶、乾燥剤入りキャップ]

### 23. 主要文献

[文献請求番号]

- 1) Silvesti, M. et al. : Int. J. Clin. Pharmacol. Ther. Toxicol. 1987; 25:493-497 [198702551]
- 2) Willner, K. et al. : Arzneim. -Forsch. 1963; 13:26-29 [196300035]
- 3) 野口英世: 薬物動態. 1995; 10:407-412 [199500744]
- 4) Calesnick, B. et al. : Clin. Pharmacol. Ther. 1967; 8:374-380 [196700073]
- 5) 塩野義製薬集計; 山本嘉幸: 臨牀と研究. 1969; 46:2122-2123 [196900108] ほか
- 6) 谷山紘太郎ほか: NEW 薬理学 (田中千賀子ほか編). 東京: 南江堂; 2002. p442-445

### 24. 文献請求先及び問い合わせ先

塩野義製薬株式会社 医薬情報センター  
〒541-0045 大阪市中央区道修町 3 丁目 1 番 8 号  
電話 0120-956-734  
FAX 06-6202-1541  
<https://www.shionogi.co.jp/med/>

### 26. 製造販売業者等

#### 26.1 製造販売元

シオノギファーマ株式会社  
大阪府摂津市三島 2 丁目 5 番 1 号

#### 26.2 販売元

塩野義製薬株式会社  
大阪市中央区道修町 3 丁目 1 番 8 号